

第 32 回政策研究大学院大学経営協議会議事要旨
The Minutes of the 32nd Administrative Council Meeting

- 日 時 : 平成 23 年 11 月 2 日 (水) 14:30~16:30
Date : November 2, 2011 (Wed) 14:30~16:30
- 場 所 : 政策研究大学院大学 会議室 3A
Venue : Meeting Room 3A
- 出席者 :
 - [学外委員]
石田委員、小野委員、加藤委員、工藤委員、嶋津委員、林委員、早房委員
 - [学内委員]
白石学長、大山理事・副学長、恒川副学長、金本学長特別補佐、
今野学長特別補佐
 - [オブザーバー]
磯谷大学運営局長
- 欠席者 :
 - [学外委員]
中邨委員
 - [学内委員]
堀江副学長、ローズ副学長

I. 審議事項 (Matters Deliberated)

1. 平成 23 年度学内補正予算について (Revision of FY2011 GRIPS Budget)

磯谷大学運営局長から、平成 23 年度学内補正予算について、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

II. 報告事項 (Matters Reported)

1. 入学者等の状況について (Status of Student Enrollment, etc.)

磯谷大学運営局長から、本学の入学者等の状況について、資料に基づき報告があった。

- ◆ 各委員からの主な発言等は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)
 - (○) ミャンマーの人材育成活動を支援することについて、欧米等からの大規模な反対があるとは考えにくい。
 - (○) ミャンマーについては、政治は別として、経済人の交流はある。ショート・コースについては、GRIPS としてのキャパシティや目的とする人材育成のレベルに沿った受入基準を設定することが重要ではないか。
 - (△) 本学としてのスタンダードをつくる必要はあるが、ある程度柔軟な対応も必要と考えている。
 - (○) 志願者数と入学者数に差があるプログラムがあるが、奨学金枠や奨学金審査で絞られて入学者が決まるのか。
 - (△) 入学者選考については、奨学金支給機関の制約を受けることはあるが、本学アドミッションズ・オフィスで蓄積した知見を活用し、本学の基準で審査を行っている。
ミャンマーからの学生は、これまでも本学で受け入れており、本学修了生グループが形成されつつある。

プロモーションについては、実際にその国に行ってみないと、情報の伝達範囲が限られてしまうため、できるだけそれぞれの国を訪問することが効果的と考えている。

2. 平成 23 年度の教育プログラムの改善・充実等について (Improvement, Development, etc. of the GRIPS Educational Programs in FY2011)

磯谷大学運営局長から、平成 23 年度の教育プログラムの改善・充実等について、資料に基づき報告があった。

- ◆ 各委員からの主な発言等は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)
 - (○) IDS プログラムについては、志願者数も例年 60 名ほどと、受ける側からは評価されているプログラムと考えられるのだが、なぜ廃止されたのか。
 - (△) 事業仕分けによるものである。本学にとっても相当ダメージが大きかったというのが実情。
 - MP1 は、本学の中心的プログラムであるが、志願者数が年々減少していることから、プログラムを立て直すためにカリキュラムの見直しを行った。

3. 研究プロジェクトの動向及び共催シンポジウムの開催等について (Trend of Research Projects in GRIPS, Co-hosting of Symposiums, etc.)

磯谷大学運営局長から、研究プロジェクトの動向及び共催シンポジウムの開催等について、資料に基づき報告があった。

- ◆ 各委員からの主な発言等は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)
 - (○) 文科省の「政策のための科学」プロジェクトは、相当重要なプロジェクトだと思うが、今後の見通し等についてどのように考えているか。
 - (△) 「政策のための科学」のような研究やこのプログラムで育てられた人材に対する需要は、日本やアジアの他国において随分大きいと考える。

4. 平成 24 年度概算要求について (FY 2012 Budget Request)

磯谷大学運営局長から、平成 24 年度概算要求の状況について、資料に基づき報告があった。

5. 公務員の給与改定に関する取扱いについて (Salary Amendment of Government Officials)

磯谷大学運営局長から、平成 23 年 10 月 28 日に閣議決定された公務員の給与改定に関する取扱いについて、資料に基づき報告があった。

6. 平成 22 年度監事監査レポートについて (FY2010 Inspector Audit Report)

磯谷大学運営局長から、平成 22 年度監事監査レポートにおける指摘事項及びその対応状況について、資料に基づき報告があった。

7. 平成 22 年度に係る業務の実績に関する評価結果について (Result of FY2010 National University Corporation Evaluation)

磯谷大学運営局長から、平成 22 年度に係る業務の実績に関する評価結果について、資料に基づき報告があった。

8. 今後の GRIPS としての大学像、あり方について

白石学長の提案により、今後の GRIPS としての大学像、あり方について、意見交換が行われた。

- ◆ 各委員からの主な発言等は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)
 - (○) ある大学では、国際機関で活躍できる人材を育成するための4年制の大学院のコースをつくるようだ。世の中が、あるいは世界中の大学がそういう方向へ進んでいるような印象を受けており、そうなると、今後、GRIPSの立ち位置が変わってくるのではないか。
外国の経営者は、ほとんど Ph. D. を持っている。そうした人でないと経営はできないのではないかという意見もある。GRIPSでも、今後ぜひ、このようなことについて、ディスカッションをしてほしい。
 - (○) GRIPSとしては、小さいながらもトップレベルの研究大学を目指すことが必要であると同時に、実務的な要請を着実に受け止めることも非常に大事ではないか。
 - (△) 実務家出身の教員は別のキャリア形成をしているので、Ph. D. を持たない者もいるが、かなりの教員は Ph. D. を持っている。

以上